

令和7年度 第1回 副業人材活用セミナー 開催レポート

○日 時 令和7年6月27日（金） 14:00～15:30

○会 場 オンライン：Zoom ウェビナー、現地：南相馬市民情報交流センター大会議室

○参加者 31名（現地17名、オンライン14名）

○ゲスト

- ・講師：JOINS 株式会社 代表取締役 猪尾 愛隆 様
- ・県内事業者：有限会社お花畑 代表取締役 宗像 有美 様
- ・副業人材：^{むらやま} 邨山 恭平 様

○内容

第1部 ハイブリット開催（現地+オンライン）

1. 講話「副業人材活用の可能性」
2. 福島県の「副業人材マッチング事業」について
3. 事例紹介「副業人材活用の成功事例」

第2部 現地開催

1. ワークショップ「自社の副業活用戦略を考える」
2. まとめ&ネクストアクション

南相馬市民情報交流センターにて、「地元企業の“次の一手”を対話で見つける90分！中小企業×外の力 副業人材活用セミナー」を開催しました。

本セミナーは、専門スキルを持つ人材を採用したいが正規採用するにはコストがかかる、専門スキルを持つ人材を採用しようと募集をかけても求めている人材からの応募がないといった課題を抱える中小企業の経営者を対象に、外部の力をどう取り入れ、自社の課題を解決できるのかを学ぶ機会として実施されました。

第1部では、JOINS 株式会社 代表取締役 猪尾 愛隆さんより「副業人材活用の可能性」をテーマにご講演いただきました。

猪尾さんは、「地方で心豊かに暮らせる人を増やす」というミッションを掲げ、地方の中小企業と、都市部で移住や転職、あるいはリモートワーク・副業を希望する人材をマッチングするサービスを提供しており、これまでに累計1,000社を超える企業と1,400件以上のマッチングを実現してきた実績をお持ちで、自社でも副業人材を活用して事業を展開されています。

講演では、「副業人材」とはどのような方なのかという多くの方に関心のある疑問に対し、「必要な分だけ、必要な時に、自社に不足する専門スキル・ノウハウを補ってくれる存在」であり、「大企業の社員なども副業人材として活躍していること」をお話いただきました。

また、副業人材の活用がここ数年で注目されるようになった背景について、活用する企業側の視点では、コロナ以後、販路拡大やデジタル対応など、従来の知見では対応が難しい課

題に直面する中で、外部の専門性に頼る必要性が高まったことが一因であり、副業人材側の視点では、平成30年の副業解禁を契機に、多様な働き方を模索する動きが広がったことや、「定年後も働きたい」という意欲を持つ人が増えてきたことが要因であるとして説明いただきました。

そのほか、社内でのリソースだけでは解決までに時間を要する課題に対して、副業人材の活用により専門的なスキルや社外の新たな視点を取り入れ、スピード感を持って取り組むことが可能になることから、「目指す姿を早期に実現したいとき」に副業人材を活用することが効果的であるとのことのお話も伺いました。

講演全体を通して、実際に副業人材のマッチング事業や自社で副業人材を活用している猪尾さんだからこそお話しいただける、非常に実践的な内容でした。特に印象的だったのは、「日々のコミュニケーションが副業人材との信頼関係を築く鍵になる」という点です。業務を依頼して終わり、ではなく、継続的な対話を通じて、共に価値を生み出していく姿勢の大切さが伝わってきました。

地方中小企業が副業人材の効果的な活用方法とは？

副業人材はあくまでも外部の業務委託先。
内部に副業人材を管理する役割は必要となる



うまくいくケース	うまくいかないケース
<ul style="list-style-type: none">・ やりたい業務の担当責任者はいる。・ この担当者が兼務で時間が足りない、ノウハウ・経験も足りていないため時間がかかっている。・ この担当者と副業人材がチームとなる。・ スタート時点で目標成果と期限を明文化。・ 毎週オンラインの定例会議で進捗確認と今週やるべきことを確認、チャットで適宜連絡取りながら業務を進める。	<ul style="list-style-type: none">・ やりたい業務の担当者責任者が社長以外にはいない。・ スタート時点で目標成果はイメージは共有するが期限は伝えず。 「言わなくてもプロなんだからわかってくれているはず」・ 社長が忙しいので定例会議はなし、副業プロ人材の成果だけ適宜報告（「何かあったらいつでも言ってください」）。

©2025 JOINS INC. Corporation. All Rights Reserved. 23

次に、事務局から福島県副業人材マッチングサイトの説明を行い、令和2年度からの実績、副業人材の動向や実際の副業人材活用事例について紹介いたしました。

そして、第1部最後のプログラムとして、福島県副業人材マッチングサイトを利用した県内企業の有限会社お花畑 代表 宗像 有美さんと、副業人材の^{むらやま} 邨山 恭平さんにお話をお伺いしました。

有限会社お花畑は、郡山市熱海町で「最期まで住み慣れたご自宅で」をモットーに掲げ、

介護・福祉サービスを展開する会社です。先代から事業を継承した代表の宗像さんは、新たな職員も増える中で「会社としての目的や価値観を整理・共有したい」と考える一方、社内スタッフだけでの実行は難しいと感じていました。

そこで、福島県副業人材マッチングサイトを利用し、副業で自社の理想や想いを文章に落とし込んだビジョンマップを一緒に作ってくれる方を募集したところ、縁あって、普段地方企業の営業やマーケティングをメインとしたコンサルティングを行う邨山恭平さんと一緒に事業を進めることとなりました。

邨山さん自身、福島県には旅行で訪れたことがあり、いつか仕事でも貢献したいという思いを抱いており、今回、これまでの自身の経験を活かせる業務内容であること、そして地域貢献への思いも重なり、本プロジェクトへのエントリーを決めました。

プロジェクトでは、有限会社お花畑のミッション・ビジョン・バリューの策定を目指し、社員の皆さんとオンラインと現地訪問の両面から密にコミュニケーションを取りながら、社員の本音を引き出せるよう、ワークショップ形式で対話を重ねてきました。

具体的には、参加メンバーの社員へ宿題として、他社のミッション・ビジョン・バリューにはどのようなものがあるか調べてきてもらい、事前に他社ではどんなことを掲げているか参加メンバーに把握してもらいました。そのうえで、自社ならどうするといった発想を参加メンバーから引き出し、その発想を邨山さんの持つ「外部の視点」で丁寧に言語化するプロセスを踏みました。

宗像さんからは、「自分たちの中では当たり前になっていた言葉や価値観が、邨山さんという第三者の視点から見ると特徴や強みとして映ることがわかり、それが「自社らしさ」や大事にすべき軸であることに気付くことができた。また、普段後回しにしていた自社の存在意義と向き合う機会となり、短期間で高い完成度の成果が得られたことに大変満足している」とのお話をいただきました。

邨山さんからも、「これまでの経験が地域の課題解決に役立ったことが嬉しく、福島への思いがより一層強くなった。社員の皆さんが今回の取り組みを楽しみながら進めていた様子が印象的だった。今後もし縁があれば、また福島県を訪れたい」とのお話をいただき、福島との継続的な関わりにも前向きな姿勢を見せていました。

また、事務局のサポート体制についても「マッチングに留まらず、副業人材の強みと企業が抱える課題の擦り合わせを丁寧に行い、事務局と一緒に伴走することで、安心して業務に集中することが出来た」との感想をいただきました。



続いて、第2部として、ワークショップ「自社の副業人材活用戦略を考える」を実施しました。

参加者の皆様には、二人一組でペアを組み、事前に生成AIで分析した各社の課題をまとめた調査シートを活用し、対話を通じて自社の課題について理解を深めていただきました。

冒頭では、各自が調査シートを読み込みながら、自社が抱える経営・組織上の課題について率直に考えを共有し合う場面が見られました。

その後、ペアで互いに質問を投げかけながら、お互いの会社の課題の背景や構造を共有しました。参加者は、他者の視点を取り入れながら自社を見つめ直すことにより、新たな気づきを得ている様子が見られました。

最後に「まとめ&ネクストアクション」として、ペアワークを通じて得た新たな気づきなどを踏まえ、「事業課題」「期待すること」「募集条件」の3点について整理を行いました。これにより、自社がどのような副業人材を求めているのか、どのような形で関わってもらいたいのが明確になり、今後の副業人材受け入れに向けた第一歩が具体的に示される形となりました。

今後は、参加者の皆様にご記載いただいた内容をもとに、事務局としてマッチングや採用に向けたサポートを継続してまいります。



終了後の参加者アンケートでは、猪尾さんの講話について、「自社で副業兼業人材をたくさん採用した経験をお持ちなので、言葉に重みがあった。」、「うまくいくパターンとそうでないパターンの説明が勉強になった。」、事例紹介については「双方の満足度の高さが伝わってきた。」、「実際の声をお聞きできた事が良かった。」などの感想をいただきました。

また、全体を通じての感想としては、「1時間の中で我々が知りたいことをコンパクトにまとめていただいた。副業に対する理解度をUPすることができた。」といったご意見もあり、参加者の副業への関心の高さが改めてうかがえました。

以上